

美濃焼ができるまで (成形)



成形

ローラーマシンによる自動成形で同じ器を大量に生産できるぞ。回転体以外はひとつずつ手作業でいこみ成形をしておるんじゃ。

素焼き

窯屋さん

ローラーマシン

皿や碗の正円の回転体

加熱したコテが回転しながら下りる

コテと石膏で挟むように成形

約800℃で6~8時間粘土の水分を抜くために焼く。吸水性が高まり施釉がしやすくなる。

いこみ屋さん

圧力

ローラーマシンでは難しい変形もの

調合 加圧

石膏型を積み圧力をかけて泥しょうを送る

石膏が水分を吸収して固まる

窯屋さんに納品

いこみ屋さん

排泥

とっくりや花瓶など中が空洞で袋状のもの

泥しょう

泥をガバッと出すことから、ガバいこみともいわれておる。

目指す厚みで泥しょうを排出すると石膏に吸着した部分だけが残る

分業制で成り立つ美濃では、重い石膏型を扱い手作業で成形するいこみ屋さんの下支えは大きいぞ。

市長の部屋から

11月2日(木)~4日(土)

土岐商工会議所主催による展示会「美濃焼上絵付土岐」がセラトピア土岐で初開催されました。美濃焼のみならず他産地からも集められた繊細かつ華やかな品々が、訪れた人々を3日間にわたり楽しませました。



子どもの頃、転写貼りを手伝った経験があり、私にとって絵付けというと主に転写、量産品といったイメージが少しあります。しかし、今日こちらに集まった品々に目を通すと、長きにわたり受け継がれてきた技術の重みや、一品一品に込められた職人さんの思いなどが伝わってきて、手書きの作品の良さもひしひしと感じます。



今回のような企画展示は2回目以降も開催されるということです。市民の皆さんには今後もぜひ足を運んでいただいて、いい作品にたくさん触れていただきたいと思います。

土岐市長 加藤靖也